

1. 「(仮称) 県立学校改革推進プラン」の考え方について

【基本的コンセプト (案)】

- (1) 生徒が志を持って学び、夢をはぐくむ学校
- (2) 生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校
- (3) 地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校

(1) 生徒が志を持って学び、夢をはぐくむ学校

- 生徒の多様なニーズに対応した教育活動を行う、様々なスタイルの学校づくりを進める。
- 生徒が、将来、社会人としての自覚を持って、人間関係を築きながら自立し、社会に貢献できるよう、勤労観・職業観の育成を行う。
- 生徒が、高い志を持って夢や希望の実現に向け、課題や困難を乗り越えて生きていく力をはぐくむため、基礎・基本の確実な定着、学力の向上、創造力の伸長等を目指した学習活動を行う。

(2) 生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校

- 生徒が自ら学び考え、わかるできる喜びを実感できるとともに、教職員も生きがいを感じ、自信と誇りや意欲を持って教育活動に当たる学校づくりを進める。
- 授業や部活動等をとおして、生徒一人一人が、主体性を持って充実した学校生活を送り、達成感を得られるよう、創意工夫を生かした教育活動を展開する。
そのために、教職員一人一人が、自主的・意欲的に資質能力の向上が図れるよう、研修等の充実を図る。

(3) 地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校

- 学校が持つ教育力の地域への還元と、大学や社会教育施設、企業、人材等の地域が持つ教育力による学校支援など、学校と地域との双方向による連携・協力を行う学校づくりを進める。
- 生徒が地域や社会と関わることにより、社会の一員として成長できるよう、生徒の社会参画を積極的に進める。
- 地域や家庭とともに教育を進めていくために、地域や保護者の声を学校運営に生かすなど、県民に信頼され、身近で愛されるよう開かれた学校づくりを進める。

【改革の方向性（案）】

- (1) キャリア教育・職業教育の充実
- (2) 生徒の多様なニーズに対応した新たなスタイルの学校の設置
- (3) 確かな学力の向上
- (4) 学校と地域の連携による教育力の向上
- (5) 学校規模や配置の適正化
- (6) 学校の再編・学科の再構成
- (7) 効果的な学校運営

(1) キャリア教育・職業教育の充実

普通科を含めたすべての高校において、社会人や職業人として必要な知識・技能や勤労観・職業観等を育成し、産業構造・就業構造の変化や社会の要請等に適切に対応できる能力を育成するためのキャリア教育・職業教育の充実を図る。

(2) 生徒の多様なニーズに対応した新たなスタイルの学校の設置

中学校卒業者の98%が高校に進学していることから、大学等の上級学校への進学を希望する生徒、就職を希望する生徒、多様な学習スタイルや学び直しの機会を必要とする生徒など、生徒の多様なニーズに対応した、「やり直しのきくシステム」や進学指導重点校の充実、新たなスタイルの学校の設置などを進める。

(3) 確かな学力の向上

子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力を身に付けるため、言語活動や体験活動の充実を図る。
また、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)などの活用を積極的に進める。

(4) 学校と地域の連携による教育力の向上

地域全体で子どもたちを育てるという視点から、大学や社会教育施設などの教育機関や地域との連携、地域人材の活用、生徒の学校外での学修などにより、幅広い教育活動を推進する。

また、学校・生徒が地域社会に貢献できる取組を推進するとともに、県民の生涯学習ニーズに応えられる、「地域の学習センター」としての役割を果たす学校づくりを進める。

(5) 学校規模や配置の適正化

生徒が多くの人・友人・教師との触れ合いや、お互いの切磋琢磨により、生きる力をはぐくんでいくために、学校規模の確保や配置の適正化を図る。

(6) 学校の再編・学科の再構成

県民のニーズや社会の一層の変化に対応するため、既設校の単位制高校や中高一貫教育校等への転換、既設学科の他学科への転換など、学校再編及び学科再構成を行う。

(7) 効果的な学校運営

既設の施設・設備の有効活用を図るなどの工夫を行うとともに、民間的手法による学校運営など、効果的・効率的な学校運営を進める。

【計画の目標年次及び性格（案）】

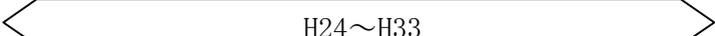
（１）計画の目標年次

本計画は、平成 24 年度を初年度として、10 年後の平成 33 年度を目標年次とする。

（２）計画の性格

本計画は、今後 10 年間の県立学校改革に関する基本的な考え方を示すものであり、実施に当たっては、社会の変化や教育を取りまく状況の変化が著しいことを踏まえ、平成 24 年度からの 5 年間（前期）と、平成 29 年度からの 5 年間（後期）に分けて具体計画（実施プログラム）を策定し、社会状況や財政状況、学校・地域関係者等からの意見などを勘案しながら推進する。

○「千葉県総合計画」及び「千葉県教育振興基本計画」の期間

年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
千葉県総合計画	 H22～H31 ○10 年後の千葉県の目指す姿と進むべき方向性を明示											
千葉県教育振興 基本計画	 H22～H31 ○10 年後の子どもたち、家庭、学校、地域の姿を展望											
(仮称)県立学校改革 推進プラン	 H24～H33 ○10 年間の県立学校改革に関する基本的な考え方を明示											

〔県立学校改革推進プラン策定懇談会〕



座 長：玉川大学教職大学院教授 小松郁夫委員
 副座長：国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部
 総括研究官 屋敷和佳委員
 （所属は、平成 22 年度現在）

【策定懇談会における主な意見】

(1) 「基本的コンセプト」及び「改革の方向性」

- ・地域の中で高校が浮いてしまっているような思いがある。地域とともに歩む学校ということは賛成である。
- ・千葉県下の公立高校で「地域とともに歩んでいきたい」という高校は数多くあると思う。その地域の子ども達と地域がしっかり連携していければ、高校は、地域の中でコミュニティ・スクールとして生きていけると思う。この3番（地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校）は、大変重要なものだと思っている。
- ・（基本的コンセプトの）3番は教育と直接関係ないように思った。特にこれが今回のテーマの一つに高校再編で地域に人が少なくなってきた場合、学校を場合によってはなくすということが出て来ると、それに対してこの項目があるとやりにくくなるのではないかと懸念している。
- ・「地域の人たち」と言っても開放講座ぐらいしかない。高校にこういうことをあえて重点項目として入れるのは、ちょっと無理があると思う。
- ・地域に対してどういう期待を持っているのか。基本コンセプトから何をしたいのかが分かるようにしないといけない。基本コンセプトというものが、今回やる方向を定めるものであるとするなら、皆さん同じ意味を持った方が良いと思っている。
- ・これが高校再編という大義名分のために書かれてあるとしたら、むしろ、3つめの学校の教育力の地域への還元ということを主体とすべきだと思う。
- ・理念そのものは賛成するが、これを学校という現場で日々実践して、その実践から成果を入れようとしたら組織全体を見直さなければできないことである。現場にこの理念だけを丸投げしたら現場が混乱するだけで、何も成果は得られないと思う。
- ・地域の子ども達が行きたいと思うような学校を、そこに作らないといけないのではないと思う。そこが解決しないと根本的な解決にならない。
- ・良い学校にするのか、それとも子ども達はどうしても行きたいと思う学校をつくるのか、そういうところが今大事なのではないと思う。
- ・子ども達と色々なことを経験して、楽しみながら授業が出来る、先生方もいろんな負担がかからないような活動ができると、生徒や教職員が生き生きと活動しても、今でもすぐに実現できると思う。
- ・地域で生きていくということは、大きく二つあると思う。一つは学校が地域に対してできること、逆に地域から学校がしていただけることの両方の面がある。
- ・県立学校が地域の活性化につながっている現状があるので、地域の状況を良く把握して進めてもらいたい。

(2) 計画の目標年次及び性格

- ・前期・後期に分かれるということ自体は妥当だと思うが、それ以上に状況の推移が激しい場合もあると思うので、5年にとらわれずに、途中でも手をつけるような弾力性があった方が良いのではないと思う。
- ・色々なことが起こると思うが、「社会状況や財政状況、学校・地域関係者からの意見などを勘案しながら推進する」という言葉の中に、適宜に柔軟に対応するということが内包していると読み取れるのではないかと。